

みどりみらい ぐんじとしのりの議会報告

2001/11/10 Vol. 81 西の原2-3-6-104 TEL/FAX 45-8362
E-MAIL ID / toshigunji@hotmail.com

印西市議会/平成13年第3回定例会報告(4) ～ 住宅施策を考える(1) <総論>

いつもお世話になっております。印西市議会(9月定例会)は、9月27日(木曜日)にて終了しました。今回も引き続き、9月定例会の報告を行って参ります。

今回は、「住宅施策」について、皆様と考えていながら、私から印西市への質問、印西市からの回答をご報告していきたいと思っております。

- 私の公約の一つに「マンション居住環境の充実を市が補助する」というものがありません。この公約実現の為に、活動を行っているわけですが、資料をいろいろ探している中で気づいた点が多くあります。例えば、市の庁舎内には「住宅課」はありません。住宅の事を調べるには多くの部署を歩かねばなりません。市はマンションだけではなく、住宅に対しての将来ビジョン、全体ビジョンを持ち合わせていないようです。千葉ニュータウンを抱えているにもかかわらず、高度成長期に建造され、入居が進んだ、千里ニュータウンや多摩ニュータウン等のニュータウンの視察も行った様子もない。これでは、「マンション政策」以前の問題ではないか? 印西市では現在、どこまで、住宅問題を考えて、いったいどのような対応をしようとしているのか。私の考えを述べながら市への質問につなげて行きたいと思っております。

私達が住むこの国、日本の社会は、経済的に豊かに成長する社会から、人生の豊かさを考える成熟社会へと移行してきています。しかしながら、わたしたちはこうした社会の中で、様々な課題を抱えています。長期的に景気が停滞し、企業業績等が悪化する中で、安定して職業に就くことが必ずしも望めなくなってきました。また、第1次ベビーブーム世代が高齢期を迎える時期になり、高齢化社会が加速する一方、出生率は低く少子化が進み、年齢別人口構成のバランスがくずれ、少子・高齢社会となってきました。さらに核家族化がすすむ現在、高齢者に対する、介護が必要になった時の住まいの問題や、費用負担、介護施設等に対する支援体制の充実が望まれています。地震等の災害についても、住まいの耐震性やまちの防災体制の強化に取り組む必要があります。地球環境においても、二酸化炭素等の温室効果ガスの増加による温暖化、フロン等によるオゾン層の破壊、熱帯雨林の減少等による環境への影響が懸念されています。住まいの中でも、様々な建材から発生する室内環境汚染が社会問題となっています。このような様々な課題に対して、わたしたちは多くの不安を抱えており、こうした不安に対して、ひとつひとつ安心を積み上げていくことが、人生を豊かにおくるための前提であると考えます。 / このように考えると将来に不安なく、住み続けることのできる住宅が必要です。ですから、住宅問題は重要ではないかと私は考えております。

確かに住宅は一般に個人財産である場合が多いことから、その建築や建て替えによる住宅・住環境の向上は、市民や事業者自身の自主性や創意工夫によるところが重要だと考えます。しかし、行政は、よりよい住宅・住環境の実現にむけて、福祉的視点からのサポート、住環境向上の為に都市基盤の整備、市民一体となった住宅政策をすすめるための情報の提供や意見の聴取等に対して重要な役割を担うと認識すべきなのではないでしょうか? また、市民相互、市民と事業者間に生じるトラブルはまち・建物づくりのルールに基づいて解決されなければならない、市はそのための誠実な話し合いを促進・調停する役割を果たす。このように考えるのが妥当であると思っております。

皆様はどのように考えますか? 今回の質問を通して、考えて行きたいと思っております。

9/7（金曜日）に、一般質問に立ちました。

～以下、私の質問と市当局の回答です。

1. 住宅政策の基本理念について

近年の住民や住環境をとりまく環境は、社会、経済の変化のなか、大きく変わろうとしている。住宅は私達が生活を送るうえでの基盤であり、安心して住み続けていくために重要な要素であると考えます。

(1) 住宅・住環境をめぐる現況と課題をどこまで認識把握しているか？

- (1) 印西市内には何棟の集合住宅があるか
- (2) その集合住宅に住む市民は何世帯・何名か
- (3) (1)のうちエレベータのない集合住宅は何棟あるか
- (4) 印西市内には何棟の木造住宅があるか
- (5) お年寄りだけで暮らす市民は何世帯、何名か。

(回答/市長)

1の(1)住宅、住環境をめぐる現況と課題をどこまで認識把握しているかについてお答えします。(1) 印西市内に何棟の集合住宅があるかのご質問ですが、市内には平成13年6月末時点で、592棟ございます。(2) その集合住宅に住む市民は何世帯、何名かにつきましては、平成13年6月末時点で、9503世帯、28462人です。(3) (1)のうちエレベータのない集合住宅は何棟あるかのご質問ですが、512棟です。(4) 印西市内には何棟の木造住宅があるかのご質問につきましては、平成13年6月末時点で、8776棟です。(5) お年寄りだけで暮らす市民は、何世帯、何名かのご質問につきましては、平成13年4月1日時点で、1024世帯、1623人です。

<解説> この回答を得るまでには、非常に時間がかかり、結局、議会の質問として、市に投げかけ、やっと回答を得ました。言い換えますと、私がこの質問をするまでは、市として、印西市内の住宅事情を充分把握されていないため、即答できなかったのが事実です。。私は、この質問を通して、「(住環境をめぐる)印西市の課題」を明らかにしたいと思いました。それは、例えば、上記の(1)～(3)では「印西市民61000人のうち、半数近くを占める、集合住宅に住む人々への施策は充分ですか？」を問いかけたいと思いましたし、また、この質問と(5)の質問「お年寄りだけで暮らす市民は何世帯、何名か。」とを絡めて、「高齢者への住宅施策はいかがですか？」を問いたいと思いました。

(例えば、今は、マンションの4階に住む、40歳の子持ちの夫婦。30年経ったら、エレベータのない同じマンションに住み続けることができるでしょうか？お2人とも元気で活動できればそれは嬉しいことです。しかし、高齢者にとって階段を降りると言う動作は非常に危険が伴うものです。不安があれば、同じ所に住みつづけられるよることよりも、この街を出ることを含めて転居を考えるのではないのでしょうか？皆様はどう思いますか？)

印西市が現状を把握し、明日を語らなくては、印西市をでていく人は多くなるかもしれません。

30年後の印西市はどうなっているのでしょうか？

私は、「今、始めなくてはならない、今、考えなくてはならない明日がある。」と思います。

それは、印西市では残念ながら見当たらない「住宅政策、住宅施策」というものです。次回の紙面では、更に踏み込んで皆様と「住宅政策、住宅施策」のありかたを考えて行きたいと思います。

いつもご声援、ご支援ありがとうございます。この紙面へのご批判、ご意見もお待ちいたします。よろしく願い申し上げます。 ぐんじとしのり